

○鹿部町を代表する自主防災組織の取り組みについて

北海道駒ヶ岳は、大規模な火砕流が発生するプリニー式噴火が特徴で、昭和4年（1929年）の大噴火では、町に軽石が1メートル以上も積もり、火砕流が到達した地域は、森林が焼かれ「焼野」と呼ばれていました。

近年においても平成8年・10年・12年と水蒸気爆発をおこし、いつ大噴火を起こしてもおかしくない常時観測火山として位置づけられています。



■「焼野」地区の現在

昭和4年の大噴火から96年が経ち、「焼野」と呼ばれた地区には、大和ハウス工業が昭和48年から開発した鹿部リゾート地区が広がっています。

このリゾート地区には、現在、302世帯、521人が定住し、北海道駒ヶ岳に最も近い居住区です。



北海道駒ヶ岳昭和4年の大噴火



かつて「焼野」と呼ばれた地域に広がるリゾート地区

■鹿部リゾート地区住民による自主防災組織「鹿部リゾート駒ヶ岳噴火災害対策協議会」

「鹿部リゾート駒ヶ岳噴火対策協議会」（以下、「墳対協」）は、平成29年に発足し、コミュニティの希薄な町外からの居住者が主体となる地域において、高い防災意識を持つ住民がリゾート地区の各世帯を訪問して緊急災害時の情報伝達網を作成し、自主防災組織としての共助体制を確立していきました。

鹿部町としてもその活動を高く評価し、町で進める自主防災組織結成の認定第1号となりました。

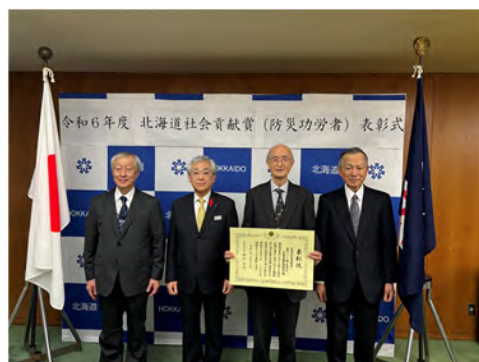
現在、鹿部リゾート地区の住民を対象に「墳対協ニュース」を定期的に発行し、町の助成金を活用して「避難ハンドブック」や「噴火防災豆知識」を作成・配布するなど、北海道駒ヶ岳噴火災害を想定した地域防災活動に貢献しています。

また、避難所運営に必要な資材を自ら準備し、自主運営を目標に避難所運営訓練を実施しています。

「墳対協」は、その功績として、令和6年度北海道社会貢献賞（防災功労者）を受賞しました。



墳対協の作成・配布したパンフレット等



北海道社会貢献者賞授賞式



【問合せ先】

北海道 鹿部町 総務・防災課

TEL：01371-7-2111

E-mail：bousai@town.shikabe.lg.jp

事務局（鹿児島市危機管理課）

TEL：099-216-1513

E-mail：kiki-kazan@city.kagoshima.lg.jp